

③ 困った行動のうらに隠れたメッセージを知ろう



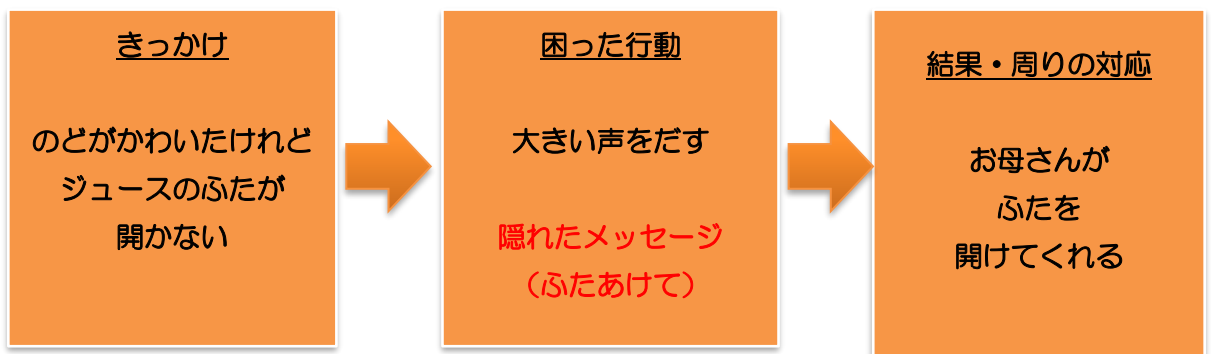
どうして 大きい声を出すのかな？



どうして おもちゃを投げるのかしら、

困った行動について観察すると、お子さんの行動の理由（行動の裏に隠れたメッセージ）があることがわかってきます。それぞれのメッセージによって、対応の仕方は変わってくるので、まずは隠れたメッセージについて考えてみましょう。

メッセージその1 物や活動の要求



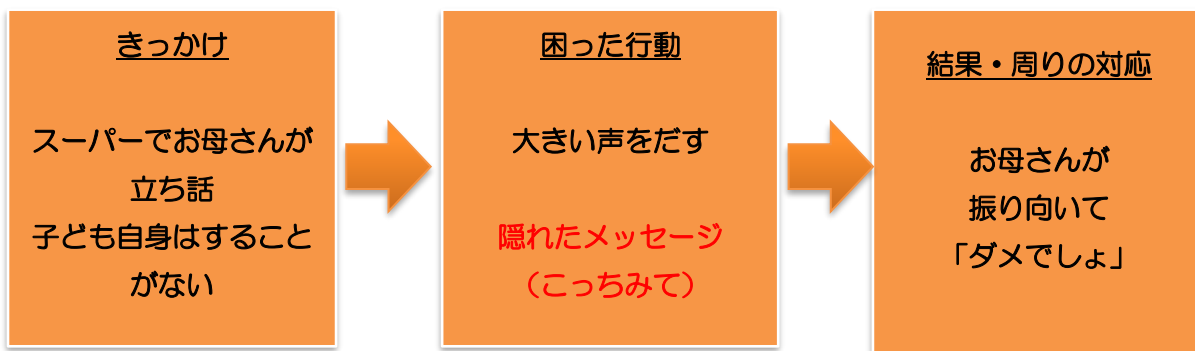
“大きい声を出す”という方法で（ふたあけて）というメッセージをお母さんに伝えるのではなく、より他者に伝わりやすい伝え方になるとよいですね。

例えば、

「あけて」と言う、お願いのサインをする、ジュースをお母さんに手渡す など

大人が「あけて」と言って上手な言い方のモデルを示したり、サインを手を添えてさせてみるなどをやってみましょう

メッセージその2 注目を得たい



“大きい声を出す”という方法で(こっちみて)というメッセージをお母さんに伝えるのではなく、より他者に伝わりやすい伝え方になるとよいですね。

例えば、

お母さんの肩を叩いて呼ぶ、「ねえねえ」と呼びかける など

また、何もしないで待つということや、どれぐらい待たねばいいかわからない状況というのは、大人でもつらいものです。絵本を渡すなどして待つ間にできることを提案したり、どれぐらいで終わるかを伝えて、少しずつ待つ練習をしていくのも大切です。

静かに待つことができているときには、しっかりとほめるようにしましょう！

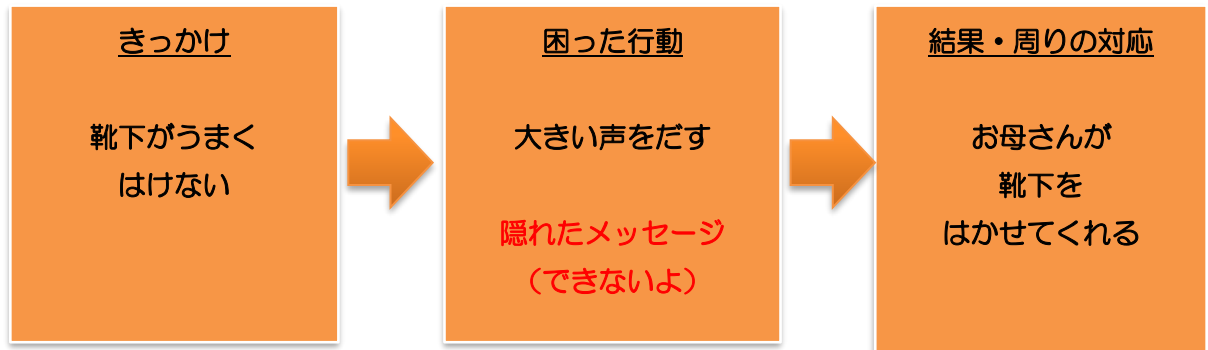
“待つ”を練習するときのアイデア

時計が理解できるお子さんであれば、「15分まで」や「数字の3まで」というように伝えるとわかりやすいです。

時計がまだ難しいお子さんには、「タイマーが鳴るまで」というようにキッチンタイマーなどを利用したり、視覚的にあとどれぐらいの時間があるかがわかりやすいタイムタイマーなどを使うとよいですよ。



メッセージその3 やりたくない、いやだ



“大きい声を出す”という方法で（できないよ）というメッセージをお母さんに伝えるのではなく、より他者に伝わりやすい伝え方になるとよいですね。

例えば、

「はかせて」とお母さんに言う、靴下をお母さんに手渡す など

また、子どもにとって、とても難しいことを求めて、うまくできないことが続くと、自信を無くしてしまったり、最初から取り組むことが嫌になってしまうことがあります。

子どもにとって、“ちょっと頑張ったらできる”レベルのことから始めて、少しずつステップアップしていくことで、子どもの自信ややる気を引き出すことができます。どうしても難しい場合には、道具を工夫して、成功しやすくするというのも大切です。

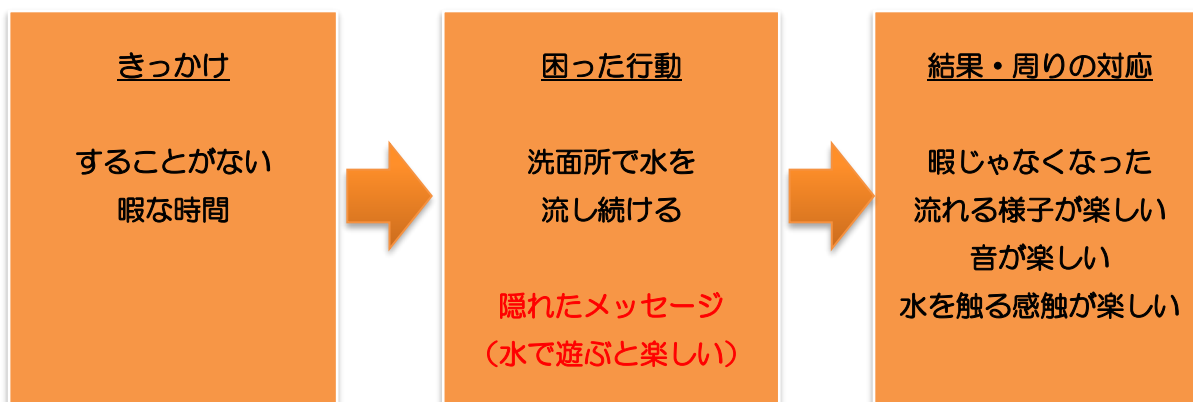
“スモールステップ”のアイデア

例えば、靴下がうまくはけない子どもの場合、簡単にはくことができる、くるぶし丈のソックスから練習を始めて、ショートソックス、ロングソックスと進めていくとスムーズかもしれません。

また、かかとの場所がわかりにくい子どもには、くるぶしだけが色が違うソックスやはく時に柄が見えるソックスなど、ソックス自体を工夫するのも良いアイデアです。



メッセージその4 感覚自体が好き



子どもたちの中には、暇になったときに自分でおもちゃを探してきて遊ぶなど遊びを見つけることが苦手な子どももいます。また、おもちゃなどの遊びにはあまり興味が持てず、音自体を楽しんだり、光や感触などの感覚的な遊びを好む子どももいます。

“洗面所で水を流し続ける”という遊びは、水道代がかかってしまったり、他の家族が洗面所を使いたいときに使うことができないなど、出来ればやめてほしい、変えてほしい遊び方であるかもしれません。しかし、ただ叱ってやめさせるだけでは、叱る大人がいないとやり始めてしまったり、暇でイライラしてしまうということが考えられるので、子どもが興味を持てる違う良い遊びに変えていきましょう。

例えば、

たらいに水を入れて、そのお水だけで遊ぶ。じょうろなどの使い方を教えて、自分で水を流して感覚を楽しめるようにする。

水の感触などが好きであれば、スライムや寒天など似たような感触のおもちゃを提案してみる。

音が好きであれば、他の音のでるおもちゃを提案してみる。

水の流れるキラキラした光が好きであれば、キラキラと光るおもちゃを提案してみる。